

下関市社会福祉協議会による高齢者福祉施設の空間構成と利用形態  
—社会福祉協議会の事業概要と地域における役割 その5—

空間構成                      社会福祉協議会                      デイサービス施設  
グループホーム

- 正会員                      ○田 甜\*\*
- 正会員                      三島 幸子\*
- 正会員                      中園 真人\*\*\*
- 正会員                      大橋 彩織\*\*\*\*
- 正会員                      石橋 風砂\*\*\*\*
- 正会員                      孔 相権\*\*\*\*\*
- 正会員                      山本 幸子\*\*\*\*\*

1. はじめに

本報では下関市社会福祉協議会が運営する高齢者通所介護施設2施設、グループホーム2施設を対象として、活動プログラムと活動場面の分析を行い、空間の利用特性を明らかにすることを目的としている。

調査内容は家具配置を含めた平面図の作成、活動場面記録調査である。活動場面記録調査は終日（通所介護施設は午前7時から午後6時、グループホームは午前9時から午後5時）5分間隔で利用者及び職員の施設内での行動観察を行い、行為の内容と場所を平面図に記録するとともに、写真撮影を行った<sup>注1)</sup>。

2. 施設の平面構成と1日の生活プログラム

2.1 平面構成

各施設の平面図を図1に示す<sup>注2)</sup>。施設Qは2016年4月から民家を活用した施設から新築に移転している。居間は広いワンフロアになっており、利用者の1日の生活拠点となっている。居間は机が配置された食事空間とソファが配置された居間空間に分かれており、プログラムに応じて使い分けている。午睡はベッドはないが、座敷とソファで行われている。浴室はトイレの隣に位置するため、利用者はトイレから直接浴室に行くことが可能である。また、浴室にはリフトが設けられており、介護度が高い利用者でも入浴すること可能である。

施設Pは民家を活用した施設で、居間を中心に周りに

部屋があり、浴室は端に配置されている。機能訓練室は続き間座敷の建具を取り払い、ワンフロアの空間としており、利用者の1日の生活拠点となっている。静養室はベッドが2台設置され、午睡の場として使用されている。事務室は玄関奥にあり、利用者の様子が見れないため、職員は台所の机を事務スペースとして活用している。

施設aは事務室・トイレ・台所を中心に周りに部屋が配置されており、食堂・居間は端に1室として確保されている点が特徴である。職員の目が届きにくい点のため、利用者は1日の大半を居間で過ごす。一方で、居間は狭いため、利用者が座ると後ろの通り抜けをしにくい点や、車椅子のまま部屋の奥まで入れない等の問題がある。

施設bは台所・事務室・畳コーナーを中心に周りに部屋が設置され、居間はオープンスペースの一角に配置されている。浴室が事務室の近くに配置されており、職員は見守りや介助しやすい点が考えられる。一方で、居間のテーブル席以外の余裕なスペースがなくて、そこに畳コーナーを連結させることが望ましいと考えられる。

2.2 一日の生活プログラム

通所介護施設の調査日の生活プログラムを図2に示す。基本的な生活プログラムは、(1)送迎（迎え）、(2)バイタルチェック・お茶、(3)入浴及び自由時間、(4)昼食準備、(5)昼食、(6)午睡、(7)機能訓練、(8)おやつ、(9)送迎（送り）から構成される。各施設で開始時間等は異なるものの、1日の流れはほぼ同じである。ただし、施設P



図1 各施設の平面図

The space configuration and the use patterns of Day Care Facilities by “shimonoseki Social Welfare Council ”  
The outline of Social Welfare Council and the role in a region (Part 5)

DEN Ten, MISHIMA Sachiko, NAKAZONO Mahito, OHASHI Saori, ISHIBASHI Nagisa, KOH Shoken, YAMAMOTO Sachiko

では午後にはコーラスが行われていた。

グループホームの1日の生活プログラムを図3に示す。

(1)起床・洗面、(2)朝食(7:00)、(3)自由時間・お茶、(4)昼食(12:00)、(5)自由時間・おやつ、(6)入浴、(7)夕食(17:00)、(8)自由時間、(9)就寝から構成される。施設bでは食事のみ時間が決まっているが、施設aでは1日の生活プログラムが決まっている点で特徴的である。

### 3. 通所介護施設の利用者の1日の生活行為と場

#### 3.1 午前の自由時間・入浴

午前の自由時間と入浴時間の活動場面の事例を図4に示す。施設Qでは、利用者はテーブル席で過ごす利用者とソファで過ごす利用者に分かれている。利用者は各自決まった席で自由時間を過ごすため、浴室やトイレに行く以外移動はほとんど観察されなかった。テーブル席で過ごす利用者は新聞を読んだり、ぬりえ等をしている。ソファで過ごす利用者はテレビを見たり、利用者同士での会話や、職員と山くずしのゲームをする場面も見られた。入浴介助は利用者の誘導も含めて2名の職員が担当する。1名の職員が入浴した利用者の荷物を片付けてから、席まで移動を介助し、次の利用者を浴室まで誘導する。

施設Pは機能訓練室へ移動して、職員1名が中心となり体操が行われる。体操後、施設Qと同様に席に座ったまま職員や利用者同士での会話等で自由時間を過ごす。また、静養室で利用者2名が麻雀をする場面も見られた。トイレに行く際には必ず職員がトイレまでの付き添いを行っている。入浴介助は施設Qと同じく職員2名が担当していた。入浴後利用者は廊下の椅子でドライヤーを使用して職員に髪を乾かしてもらい、その間に誘導担当の職員は次の利用者を浴室へ誘導する。

#### 3.2 昼食・午睡

昼食・午睡の活動場面の事例を図5に示す。施設Qでは食前の体操をソファスペースで行っており、利用者が体操をしている間に職員が昼食の準備を行う。昼食は弁当で、汁物とご飯だけを盛り付ける。昼食準備中利用者が席に着いていない状態のため、椅子背面通路が確保でき、配膳もしやすい。昼食では職員と利用者が一緒に話しながら食事をしている。昼食後、口腔ケアが行われるが、一斉に移動するため混雑し、洗面台にある椅子で順番を待つ利用者もいた。その後午睡に移行し、5名の利用者は畳、5名の利用者はソファ、3名の利用者はカーペットで休養している。1名の利用者は午睡を取らず、新聞と雑誌を読んでいた。職員は利用者の午睡の妨げにならないように、テーブル席で事務作業をする。施設Pでは食堂で昼食を取り、食事が整った状態で移動するため利用者は食事までの待ち時間は無い。移動介助が必要

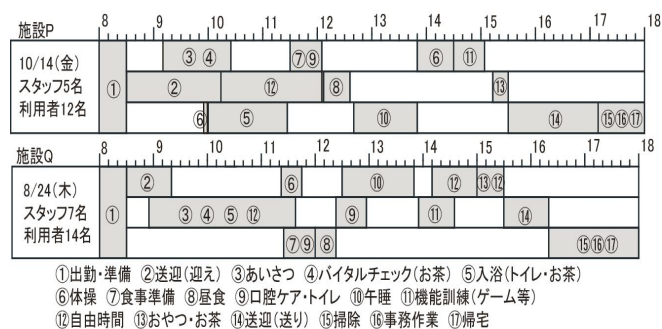


図2 通所介護施設の1日の生活プログラム

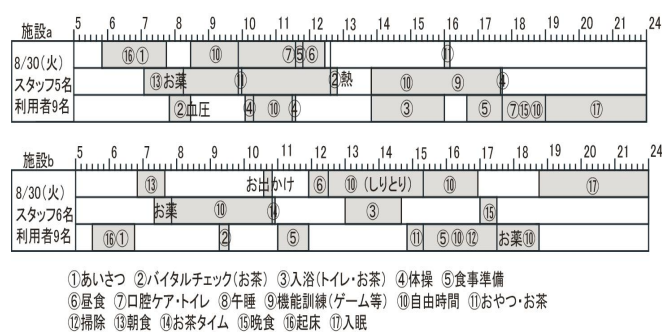


図3 グループホームの1日の生活プログラム

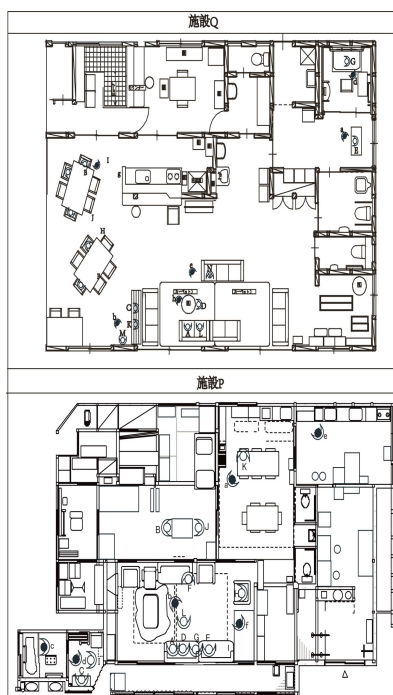


図4 入浴・自由時間(10:30)

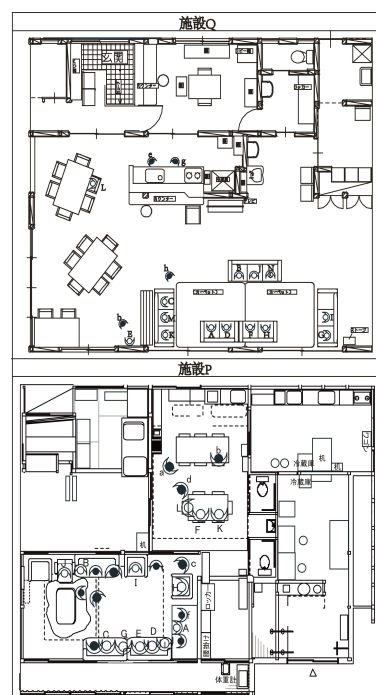


図6 機能訓練(14:30)

な利用者も数名いるが、移動距離が短いためスムーズに移行することができている。また、調理担当の職員が1名いる点は特徴である。午睡については静養室と機能訓練室の2箇所に分かれて大半の利用者が午睡を取る。2人の利用者は他の利用者の午睡を妨げないように休憩室で麻雀をしていた。

#### 3.3 機能訓練

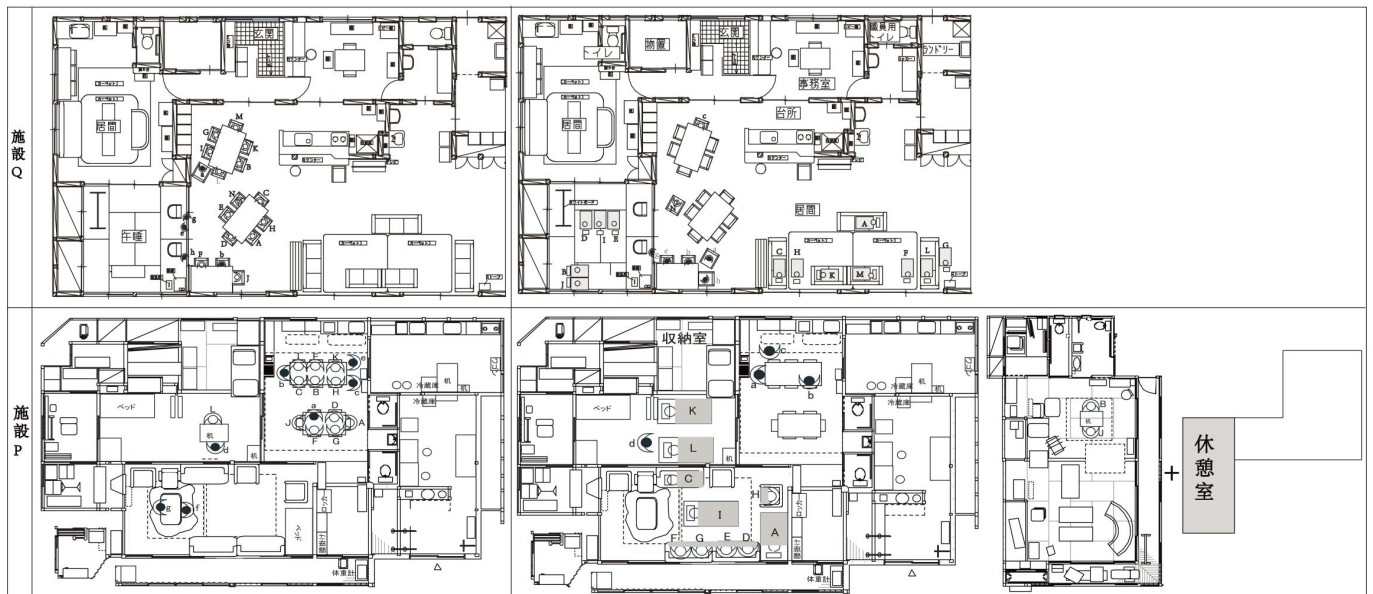


図5 昼食 (12:00)・午睡 (13:00)

機能訓練の場面を図6に示す。施設Qでは時間になると職員は利用者を起こす。この時間はトイレが混雑し、洗面所前の椅子に座って待つ利用者が観察された。全員そろそろ機能訓練として玉入れが行われた。2名の職員が担当し、利用者が楽しめるようにスタッフが積極的に利用者に声をかけている。その間、2名の職員は事務作業を行い、1名の職員はおやつ準備している。

施設Pではコーラスが行われた。外部の講師を招き2名の職員と利用者は歌を歌っていた。1名の職員が食堂で帰りたいと訴える利用者をなだめる様子も観察された。その間、施設Qと同様に1名の職員が事務作業やおやつ準備などを行っている。

### 3.4 空間構成と使われ方の関係

施設P施設では機能訓練室が2部屋確保されているためプログラムに応じて部屋の使い分けができています。そのため、自由時間からの食事への移行、食事から午睡への移行が円滑に行われ、円滑なプログラムの進行が可能あり、利用者も居場所を選択することができています。また、機能訓練室と便所の距離が近いので、スタッフは利用者の行き帰りの様子を見ることができています。施設Qでは1室で全てのプログラムを行うが、家具配置により空間を分けることにより、円滑なプログラムの進行が可能となっている。また、ワンルームのため職員は利用者の行動を見守りやすい利点も有す。

## 4. グループホーム入居者の1日の生活行為と場

### 4.1 食事

朝食の場面を図7左に示す。施設aでは利用者は起床後部屋内の洗面台で顔を洗う。その後、トイレに行き、居間の決まった席に座る。朝食は夜勤の職員が台所で作

っている。7時頃になると職員が朝食を配膳して、食べ始める。施設aと同様に7時ごろに朝食を取る。1名の車椅子利用者のみ朝食を食べ終わる頃に起床し、職員の介助でトイレに行ってから、朝食を取っていた。昼食、夕食もそれぞれ決められた時間に朝食と同様に食事していた。

### 4.2 自由時間

自由時間の場面を図7中に示す。施設aでは朝食後バイタルチェックが行われ、自由時間に移行する。入居者は居間で自由時間を過ごす。1名の介護度の高い利用者のみ居室で1日を過ごす。午前では、自由に過ごしており、タオルをたたむ利用者や食材の皮むきを手伝う利用者が観察された。午後では1名の職員を中心にテレビを見ながらの体操後、歌を歌っていた。また、1名の利用者は入浴後、職員の介助により施設内で歩行訓練を行っていた。

施設bはプログラムが決まっていないため、居間で過ごす利用者や居室で過ごす利用者等それぞれ自由に過ごしている。また、4名の入居者は散歩に出ており、1名の職員が付き添っていた。午後には、居間の机で1名の職員を中心にしりとりを行う場面も見られた。その際1名の入居者はソファで、1名の入居者は塗り絵をしながらしりとりに参加しており、1名の入居者は参加していない。

### 4.3 入浴

入浴時間の場面を図7右に示す。両施設で午後に入浴サービスを行われる。入浴頻度は毎日の入居者から2、3日に1回の入居者と様々である。施設aでは1日平均4名が入浴している。入浴介助は1名の職員が担当し、入浴する人数が少ないため、1名の入居者の入浴時間は長い。施設bでは1日平均3名が入浴しており、その他に足湯をする入居者も3名みられた。入浴介助は一般的に施設aと同じく1名の職員が担当するが、2名の利用者が同時に

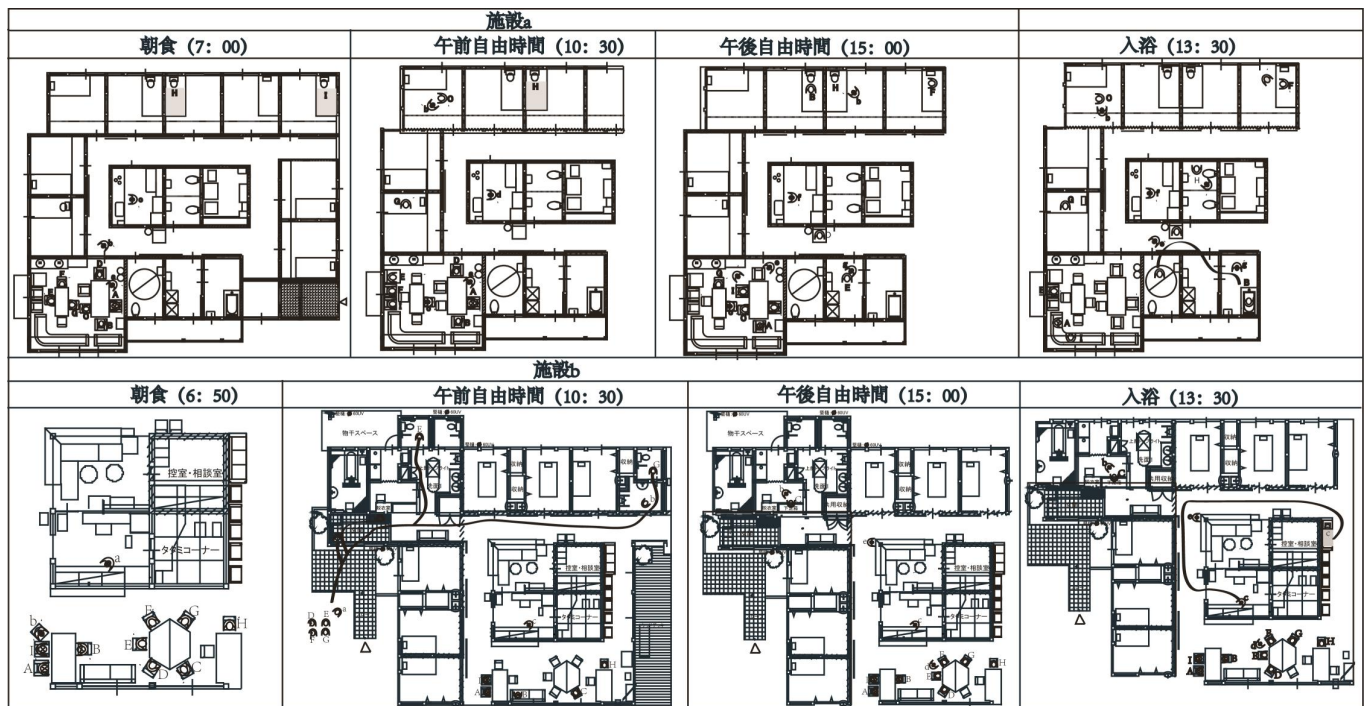


図7 食事・自由時間・入浴

入浴する場合もあるため、2名で介助する場合もある。

#### 4.4 空間構成と使われ方の関係

以上より、施設 a ではプログラムが決まっており、居間での滞在時間が長い。一方で、居間にはテーブル席以外の余裕なスペースがないため、利用者は1日を同じ席で過ごしており、トイレや入浴以外の移動はほとんど見られない。施設 b でもソファは配置されているものの、空間はそれほど広くないため、決まった席で過ごす入居者が多い。台所は食堂と居間に隣接しているため、職員は食事時の利用者の様子を見ながら作業を行うことが出来る。また、トイレと浴室は事務室の近くにあるため、職員は事務室で事務作業をしながらトイレに行く入居者を見守ることが可能である。

#### 5. まとめ

本論では下関市社協が運営する通所介護2施設とグループホーム2施設を対象に、施設の空間構成と利用形態に関して検討した。得られた知見は以下の通りである。

1) 2部屋確保されているためプログラムに応じて部屋の使い分けができ、自由時間からの食事への移行、食事から午睡への移行が円滑に行われ、円滑なプログラムの進行が可能あり、利用者は居場所を選択することができている。1室で全てのプログラムを行うが、家具配置により空間を分けることにより、円滑なプログラムの進行が

可能となっている。また、ワンルームのため職員は利用者の行動を見守りやすい利点も有す。

2) グループホーム施設では、入居者の居間の滞在時間は長い、居間が狭いため、ダイニングテーブル以外のスペースをとる余裕が無い点は課題である。一方で、台所や事務室を中心に居室を周りに配置することにより、職員は事務室から利用者を見守ることが可能である点は利点として挙げられる。

#### 謝辞

本研究を進める上で下関市社会福祉協議会事務局、各施設の職員及び利用者の方々には度重なる調査にご協力いただいた。末尾ながら記して謝意を示します。

#### 注釈

- 1) 調査時期は、施設 Q は平成 28 年 8 月 24 日、施設 P は 10 月 14 日、施設 a は 8 月 22 日、施設 b は 8 月 30 日である。
- 2) 施設 Q は 2016 年 4 月に移転し、新築の平面図である。

#### 参考文献

- 1) 中園真人他 2 名：木造民家を再利用した高齢者デイサービス施設の空間構成と使われ方, 日本建築学会計画系論文集, 第 79 巻第 696 号, pp. 491-499, 2014. 02

\* 山口大学大学院創成科学研究科 博士前期課程

\*\* 山口大学工学部理工学研究科 博士後期課程

\*\*\* 山口大学大学院創成科学研究科 教授・工博

\*\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 博士前期課程

\*\*\*\*\* 山口大学大学院創成科学研究科 講師・博士 (工学)

\*\*\*\*\* 筑波大学システム情報系 助教・博士 (工学)

\*Graduate Student, Graduate School of Science and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.

\*\* Doctoral Course, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.

\*\*\* Professor, Graduate school of Science and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.

\*\*\*\* Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.

\*\*\*\*\* Lecturer, Graduate School of Science and Technology for Innovation., Yamaguchi Univ.

\*\*\*\*\* Assistant Professors, Faculty of Eng., Info. and Systems, Univ. of Tsukuba Dr. Eng.